

公共交通の充実を



車がなくても暮らせるように

「まわローズ(巡回バス)を周辺地域にも走らせて」「買い物や病院へ行きやすくして欲しい」など、公共交通の充実を求める声が多く寄せられています。高齡化・過疎化に対応した新たな公共交通が必要です。

地域のニーズを聞き、巡回バスや乗り合いタクシーの運行を広げるよう求めました。

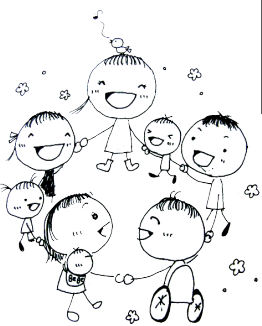
交通費補助の拡充を

また、年3千円・市民税非課税の75歳以上と額も対象もわずかなバス・タクシー券交付制度の拡大と、免許返納者への支援制度を求めました。

医療的ケア児の

通学に移動支援を

笑顔あふれる福山に



人工呼吸器などを使い、日常的に医療的ケアが必要な子どもは現在、市内の保育施設に5人、小学校31人、中学校10人、高校11人が通っています。あるお母さんは「学校に毎日つきそっているが、自分の体調が悪いと連れていけない。市の移動支援制度を使わせて

ほしい」と要望しています。

日本共産党市議団は「制度を見直し、医療的ケア児はじめ障害のある人の通学や通所の保障を」と求めました。

市長答弁「検討する」

市長は「実態把握し、検討する」と前向きに答えました。

総合的な支援体制を

医療的ケア児の保護者は、1日中つきそいが必要なために心身が疲労し、経済的に困窮することもあります。

総合的な支援体制ができるよう、今後も取り組みます。

母子生活支援施設の改善を



母

子生活支援施設は、シングルマザーや事情によって離婚ができない女性が、子ども(18歳未満)と一緒に入居し、自立に向けた支援を受けながら生活できる施設です。

母子世帯の多くが経済的に困難な状況にあり、DV(配偶者などの暴力)被害も増えるなか、施設の役割は重要です。

しかし、福山市の施設「久松寮」は建物が古く、部屋には浴室や備品もないなど、生活の場としては充分ではありません。

安心して生活する場に

建物の改築・改修や必要最低限の備品の貸し出し、24時間365日の専門職員体制の確保などの改善を求めました。

市は「施設などのハード面は、今後の整備にあわせて検討する」と答えました。



母子生活支援施設についての相談は市ネウボラ推進課へ
TEL 084-928-1053



勝手に決めないで
勝手に決める

夏休みの短縮は撤回を

保護者や子どもの声を聞いて

市教育委員会は、来年度から学校の夏休みを短縮し、7月31日まで授業を行い、年間の授業は1日6時間から原則5時間にすると発表しました。教室にエアコンがついても、猛暑の中を登下校する子どもへの安全などが懸念されます。突然の方針に、保護者や子ども、教職員や住民から疑問や不安の声があがっています。方針を撤回し、意見を聞いて再検討するよう求めました。

避難所や地域行事にも
使うから早くつけて

体育館にエアコンを



3割の費用で設置できる

学校の体育館は、災害時の避難所にも使われるため、エアコンの設置を急ぐべきです。市の負担が実質3割になる国の補助制度を活用し、早急に設置するよう求めました。設置費用の試算は、全小・中学校で44億円余で、補助制度を使えば13億円余で可能と明らかになりました。早期の設置実現に頑張ります。